

トルコ金融政策（2022年11月）

政策金利を9%に引き下げ、今次の利下げは打ち止め

2022年11月25日

金融市場の安定を保ちつつ、大統領の意向通り1桁台への利下げを完了

トルコ中央銀行は11月24日（現地）に金融政策決定会合を開催し、市場予想通り政策金利（1週間物レポ金利）を10.5%から9%に引き下げることを選択しました。

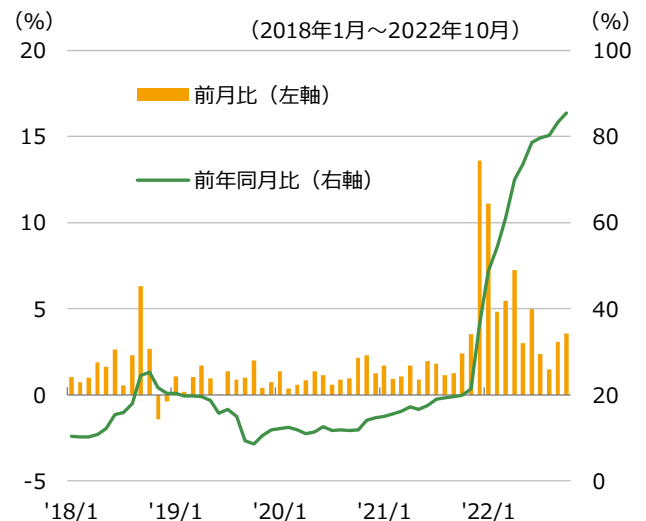
声明文では「世界経済の成長に関する不確実性が高まり、地政学リスクが一段と増大する時期において、鉱工業生産の成長モメンタムと労働市場の改善傾向を維持し、供給・投資能力の持続的な拡大に資するために、金融環境が引き続き緩和中であることが非常に重要である（下線は前回から追加された文言）」と利下げ決定の背景が説明されています。更に、「世界的な需要に関するリスクの高まりを考慮した上で、現在の政策金利は適切であると評価し、8月に開始した利下げサイクルの終了を決定した」と今会合での利下げ打ち止めを明言しました。トルコ中銀は1.5%ポイントの利下げを決定した前回会合の声明文において、「次回会合で同様の措置を取り、利下げサイクルを終了する」と述べており、今回はそれに沿った決定内容と言えます。

エルドアン大統領は9月28日に「年末までに政策金利を1桁台にすることを望む」と発言していましたが、昨年終盤のような通貨リラの急落を招くことなく、トルコ中銀は大統領の意向に沿った利下げを完了しました。今後は、民間部門に対して外貨からリラへの資金移動を促す『リラ化戦略』などにより為替市場の安定を保ちつつ、低金利によって供給能力を高めることが、インフレ沈静化につながるか注目されます。

トルコの金利と為替



トルコの消費者物価指数



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。